
桜の裏側

桜咲 優莉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜の裏側

【Nコード】

N8893L

【作者名】

桜咲 優莉

【あらすじ】

短編小説「桜」に登場した男の目線の話。「桜」の裏側とは？「桜」のもう一つの物語

家でゴロゴロしていると
突然のアイツからのメール。

内容は

『話があるんだけど
今大丈夫？』

いつものようなメールではなく
どこか深刻そうだった。

俺はすぐに返信をして
アイツと会うことにした。

場所は今の時期
桜がきれいに咲いている
人気のない近所の公園。

どちらの家からも近く
俺はすぐにその場所に向かった。

そこで会ったアイツは
何時^{いつ}もと違っていた

「ねえ」

しばらくの沈黙の後
口を開いたのはアイツだった。

「どうした？急に？」

俺は素知らぬ振りをしてアイツに尋ねた。

必死に冷静を装ったが少し声が震えた。
だがアイツはそんな俺の様子に気づかなかった。

まさか。

嫌な予感がする。

最近アイツはどこか余所余所しかった。

俺と一緒にいるのに

その瞳は俺を映していなかった。

「あのね」

聞きたいような聞きたくないような
そんな気分だった。

よせ、単なる俺の杞憂だ。

ひやり。と冷や汗が一滴流れた。

「私と別れてください」
「は?!」

杞憂は当たってしまった。

嘘だ。誰か嘘だと言ってくれ。

「だから、私と別れてください」

もう一度言ったアイツの言葉は
俺の胸に酷く圧し掛かった。

「ごめんなさい」

「何だよ……」

「好きな人ができたの」

ああ俺じゃアイツを幸せにすることが出来ないのか。

胸が酷く軋んだ。

「そうかよ……。そう言うんなら仕方ねえな……」

俺はどうしようもなく餓鬼で

「幸せになれよ」なんて気がきいた言葉なんて言えなかった。

「ばいばい」

そう言ってアイツは

俺に背を向けて歩き出した。

誰か。

これは悪い夢だと言ってくれ。

きつと目が覚めたら

いつもと変わらない日々で
アイツは俺の隣で笑っているんだって。
そう思ったら駄目か？

俺がただ茫然と立っていると
アイツはこっちに振り返った。

「早く自分の気持ちに気づいて下さい」

は？

何を言っているんだ？

アイツの顔が微かに哀しそうに歪んだが
すぐに踵を返してしまった。

「貴方が、好きです」

ぽつり。と聞こえたその言葉は
間違いではないのだろうか？

なあ勘違いだと思ってもいいか？

俺たちはただすれ違ってしまっただけだと思ってもいいか？

俺にアイツを引き留める権利はあるのか？

このままでは終わらせたくなくて
俺は走り出した。

アイツに追いつくと
アイツは涙を流しながら驚いていた。

「なあ、お前がまだ俺の事好きだって自惚れてもいいか？」
アイツの涙は止まっていた。

「俺はお前の事好きなんだ。諦めきれねえよ」

するとアイツは俺に縋るように
また泣きだした。

「ごめん」と「好き」を何度も繰り返しながら……。

やっぱりお互いがすれ違っていたただけだと知ったのは
アイツが泣きやんでから数分後の事だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8893/>

桜の裏側

2011年10月4日21時29分発行